

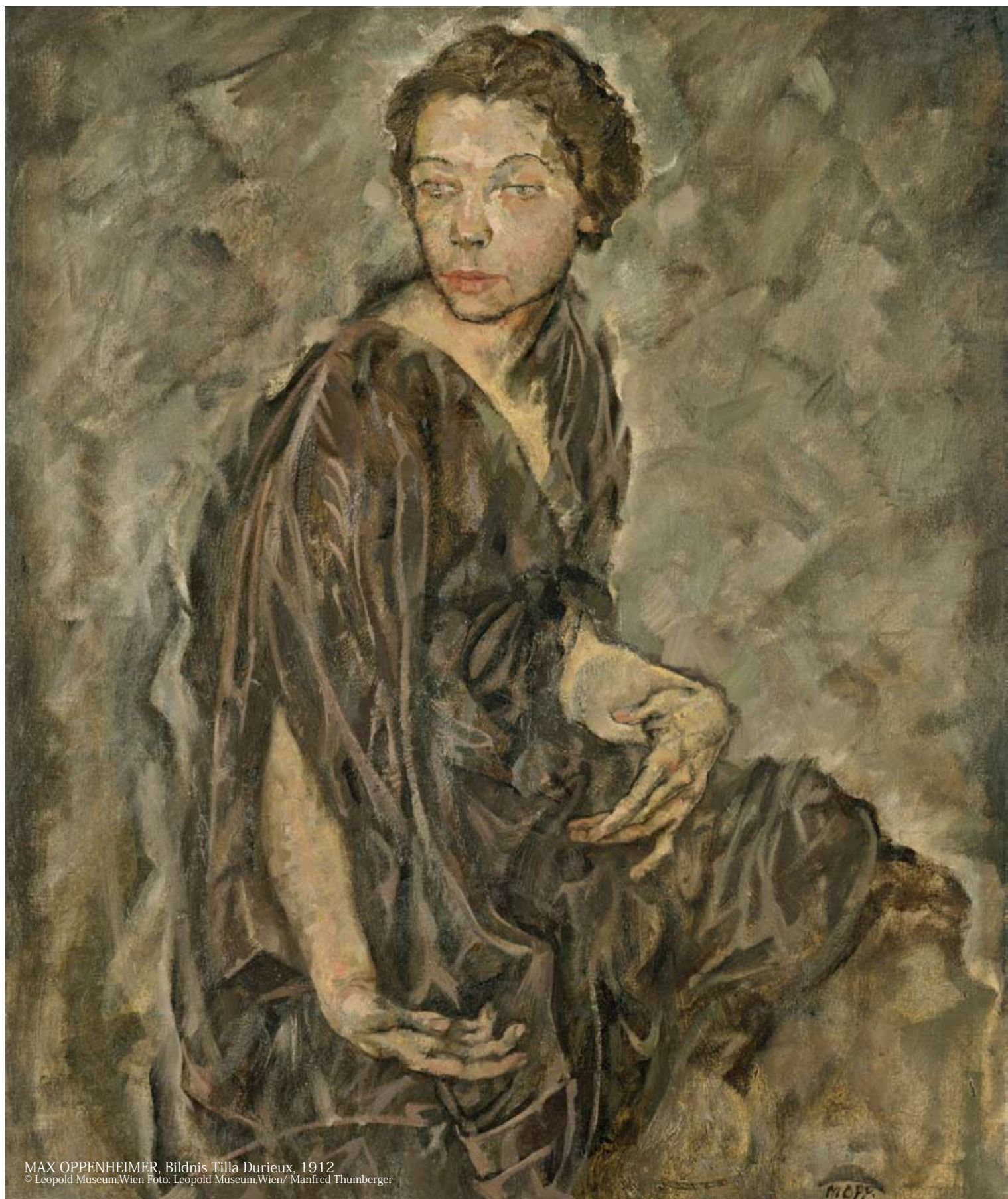
月刊ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 **Nr. 368**

GEKKAN-WIEN 2020年6月号



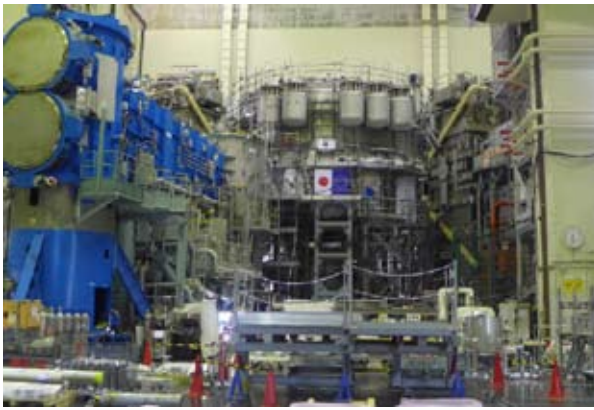
MAX OPPENHEIMER, Bildnis Tilla Durieux, 1912
© Leopold Museum Wien Foto: Leopold Museum Wien / Manfred Thumberger



杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 101

量子科学技術研究開発機構の那珂核融合研究所（茨城県那珂市）で建設が進められていた核融合超伝導トカマク型実験装置「JT-60SA」が四月二日に組み立てを完了した。

国際核融合実験炉（ITER）計画を補完・支援するものとして日欧共同で取り組む「幅広いアプローチ（BA）」活動の一つで、二〇〇七年に従前の「JT-60」を改修する形で建設が開始。二〇一三年より組立が始まり、二〇一九年五月には、「JT-60SA」の心臓部となる「中心ソレノイドコイル」（直径二m、高さ七m、重量約百トン）の据付けが報道公開のもとに行われた。



<https://www.jaif.or.jp/journal/japan/2778.html>

トカマク型核融合は、ドーナツ状の磁気のかごを作り、その中にプラズマを閉じ込める方式。「JT-60」を用いた研究では、プラズマをITERの運転に相当する高閉じ込め・高圧力の状態で世界最長時間（二八秒間）維持する成果をあげた。これを踏まえ、「JT-60SA」は、ITER計画に資するデータ取得に向け、BA活動にお

ける「サテライト・トカマク計画」と、(一) 経済性・環境適合性に向けた研究開発、(二) ITERへの科学的知見の提供、(三) ITER研究をリードする人材育成——を掲げるトカマク国内重点化装置計画のもと、ITERの約半分規模の装置として建設が進められた。今後、「JT-60SA」では、超伝導コイル冷却など、順次各機器の健全性を確認しつつ動作させ、今秋頃にも最初のプラズマを着火し統合試験運転を開始する予定となっている。

「サテライト・トカマク計画」の他、「国際核融合材料照射施設の工学実証・設計事業」など、日欧で三つの事業を進めるBA活動については三月に、二〇〇七年六月・二〇二〇年三月のフェーズ二に続き、二〇二四年度のITER運転開始を目指し、新たなフェーズに向けた共同宣言署名式（欧州委員会本部にて）が行われている。さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市を代表する寺院（二〇一六年十月号に続くその二）について述べる。ウィーンでシュテファン大聖堂に次いで人気のある教会は、ペーター教会である。シュテファン大聖堂からグラーベン通りを三分程歩いた右側の小さなペーター広場に建っている。創設は九世紀初頭のカール大帝の頃までさかのぼる、ウィーンで二番目に古い教会である。一七三七年に聖人ペトロ（ドイツ語でペーター）に捧げられ、二世紀の終わりにシヨッテン修道会の管轄に入り、一六六一年には火災により焼失した。その後、皇帝レオポルド一世の提唱により新しい教会にすることが決まり、ベルヴェデーレ宮殿を設計した建築家ルーカス・フォン・ヒルデブランドトにより現在のバロックの姿になり、一七〇一〜一七三三年の間に完成した。内部はヨハン・ロッドマイヤーの「聖母マリアの被昇天」の天井画や主祭壇の彫刻など華麗な装飾で飾られている。

一方、京都で金閣寺の次に人気が高いの

は、左京区の大字山麓にある銀閣寺であろうか。銀閣寺の名は江戸時代、金閣寺に対し銀閣寺と称せられたことに由来する。室町幕府八代將軍の足利義政によって造営された山荘東山殿を起原とし、義政の没後、臨濟宗の寺院となり義政の法号慈照院にちなんで慈照寺と正式に名付けられた。一四八九年に上棟した銀閣（国宝）は宝形造り二層の楼閣。庭の北にある東求堂（国宝）内部に同仁齋があり、四畳半茶室の原型といわれる。仏間は阿弥陀如来像、義政公像を安置している。下段の庭園は池泉回遊式庭園（特別名勝・特別史跡）で、本堂前の銀沙灘、向月台の二つの砂盛りが印象的。十五歳にして將軍職を継いだ義政は、生涯をかけ自らの美意識のすべてを投影し、東山文化の真髓たる簡素枯淡の美を映す一大山荘を作り上げた。ペーター教会も銀閣寺も小ぶりな寺院であるが、数百年前の美を現代に脈々と伝えているのが共通している。

余談であるが、筆者はウィーン駐在時にペーター教会は何度も訪問した。主祭壇も天井のフレスコ画も素晴らしく、不思議と静かな空間を感じた。銀閣寺は高校の修学旅行以来、京大赴任時にも訪問した。縁側に座って東求堂をスケッチしたことがある。今月も両市の代表的な寺院にまつわる話を紹介できた幸運に感謝しつつ、ウィーン駐在時に描いたペーター教会のスケッチを掲載させていただく



■ 杉本純 元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■

杉本純の原子力の話 II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

オーストリアの新型コロナウイルス感染状況 2020年5月31日 22:00 現在

オーストリアでの検査数 44万 8534名、陽性確認 1万 6642（ウィーン 3233 / 住民 10万人につき 170）名、感染者比男性 49% 女性 51%、病状者 470（ウィーン 261）名、感染確認が陽性で入院せず 373名、使用可能な普通病床 1万 0828 ベッド / 使用 70 ベッド、使用可能な集中治療 834 ベッド / 使用 27 ベッド、届け出のあった死亡 668 / 感染によると確認された死亡 638（ウィーン 172）名、死亡者比男性 57% 女性 43%、回復 1万 5593（ウィーン 2855）名 © Bundesministerium für Soziales, Gesundheit, Pflege und Konsumentenschutz

